

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
東京アニメーションカレッジ専門学校		昭和59年3月30日		田中道信		〒 161-0033 (住所) 東京都新宿区下落合1-1-8 (電話) 03-5332-3056				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人創都学園		昭和59年3月30日		鈴木雅文		〒 161-0033 (住所) 東京都新宿区下落合1-1-8 (電話) 03-5332-3056				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度				
文化・教養	文化・教養専門課程	総合学科 (総合アニメプロデュースコース)		平成20(2008)年度	-	令和 3(2021)年度				
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づきマンガ・アニメ・イラスト・声優に関し必要とされる技能を養成し、それらを総合的に理解しプロデュースする知識や技術を身につける。又は教育の向上を図ることを目的とする。									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	3年間かけより幅広い分野の専門性を学び、総合的な能力の向上を図っていく。担任制・固定教室制。									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			2,688 単位時間	192 単位時間	0 単位時間	2,496 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
					単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)						
90 人の内数	32 人	9 人		28 %						
就職等の状況	■卒業者数(C)		12		人					
	■就職希望者数(D)		6		人					
	■就職者数(E)		3		人					
	■地元就職者数(F)		0		人					
	■就職率(E/D)		50		%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		0		%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		25		%					
	■進学者数		0		人					
	■その他									
					(令和 4 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)					
		■主な就職先、業界等		(令和4年度卒業生) 声優プロダクション、アニメ制作会社、漫画出版関連						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無							
		※有の場合、例えば以下について任意記載								
		評価団体:	受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL					
当該学科のホームページURL	https://www.tokyo-anime.jp/subject/anime.html									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)									
	総授業時数		2,688 単位時間							
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		128 単位時間						
		うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間						
		うち必修授業時数		2,688 単位時間						
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		128 単位時間						
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間						
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間						
		(B: 単位数による算定)								
		総授業時数		単位						
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位						
		うち企業等と連携した演習の授業時数		単位						
		うち必修授業時数		単位						
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位						
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位						
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		6 人					
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		2 人					
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人					
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		1 人					
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0 人					
	計				9 人					
		上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		8 人						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程(カリキュラム)編成において、アニメーション業界の時代に即した人材育成の要望に応えられるよう、日本動画協会をはじめ、様々なアニメ制作会社にプロとして必要な技術技能などヒアリングしながら実践的な教育カリキュラムの開発や施設設備及び実践研修環境の充実等、教育課程の内容充実を図れるよう取り組んでいく。また、業界の方に学校を見学してもらい意見交換する機会を設けるなど積極的に業界の意見を取り入れていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、企業等の要請を教育課程へ反映し、実践的な職業教育実施のための委員会として組織する。その委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、その他会議等において内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年9月20日現在

名前	所属	任期	種別
南 雅彦	株式会社ボンズ代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
大平 幸輝	合同会社 アカランタン 社長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
香取 正樹	公益社団法人 日本漫画家協会 参与	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
志田 隆一郎	株式会社サイドランチ 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
百田 英生	一般社団法人 国際声優育成協会 理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
西名 武	株式会社HALF H・P STUDIO (ハーフエイチ・ピーススタジオ)取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
木村 崇信	有限会社F9 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
田中 道信	東京アニメーションカレッジ専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
伊藤 恒幸	東京アニメーションカレッジ専門学校 総合学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
稲見 千春	東京アニメーションカレッジ専門学校 アニメ学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
笠貫 正伸	東京アニメーションカレッジ専門学校 アニメーション担当	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
西澤 愛	東京アニメーションカレッジ専門学校 マンガ・イラスト学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
原崎 真由子	東京アニメーションカレッジ専門学校 声優学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
小野 はるか	東京アニメーションカレッジ専門学校 声優学科担当	令和5年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (11月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年11月14日 17:00～19:00

第2回 令和5年3月29日 17:00～19:00

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

業界のデジタル化に合わせた学校の対応について毎回委員から意見をいただいております。昨年度よりアニメ系のコースは学生の教材としてPC購入必須としカリキュラム内容もデジタル化を少しずつ図っている。

アニメ作品だけでなく演劇など様々なジャンルの物を見せるべきとの委員の意見に基づき演劇や歌舞伎など様々な舞台鑑賞を実施し、クリエイティブ性の向上につなげている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

アニメーション業界の最前線の知識・技術・技能を実習に取り入れていく為、アニメーション関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供していく。また、作画からペイント・背景・撮影などアニメ制作の全体を理解した上で制作できるようにするため、各セクションの人材に話を聞く機会を設けるなどアニメーションとしての専門性を高める努力をしていく。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業との連携により、撮影スタッフを講師として派遣してもらい、アニメーション制作会社における重要なセクションである『撮影』セクションへの理解を深め、映像制作のソフトウェアオペレーションの習得だけではなく、アニメーション映像を制作するうえで必要となる素材の作成方法を実習を通して知る。

課題として様々な撮影テクニックを使った映像を作成し、その完成度をもって課題評価を行う。

評価に関しても合同会社アカランタンにおいて、どの程度実際の現場で通用するかの基準をもって評価している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
映像編集	アニメーション「撮影」セクションへの理解と就職を目標とした知識と技術の修得学習を行なう。	合同会社アカランタン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や各種表現活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、創都学園 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「アニメ人材パートナーズフォーラム 産学交流会」	連携企業等:	日本動画協会
期間:	令和4年7月22日(金)	対象:	教員2名
内容	学生向け講座動画のご案内や、コロナ禍における規制緩和による今後の動向、学校教育と就業を結ぶ実習等について		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「人権教育研修「発達障害に対する理解と援助」	連携企業等:	公益財団法人東京都私学財団
期間:	令和4年11月30日(水)	対象:	教員1名
内容	発達障害についての正しい知識、ADHD、ASDなどの発達障害の特徴と、それぞれに合わせた学校における具体的な配慮と支援のあり方について		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「アニメ人材パートナーズフォーラム 産学交流会」	連携企業等:	日本動画協会
期間:	令和5年複数回実施	対象:	教員2名
内容	学生向け講座動画・オンライン・対面の案内や、業界の動向、学校教育と就業を結ぶ実習等について		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	人権教育研修	連携企業等:	公益財団法人東京都私学財団
期間:	令和5年11月頃	対象:	教員1名
内容	毎年実施のメンタルヘルスケアなどに関する具体的な配慮と支援のあり方について		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校教育活動についてを説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために多角的にその運営が適正に行われているのかを審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

モチベーションの底上げや教員による評価の差をどのように均一化していくかなどの意見が出た。地域貢献も兼ねて小学生対象に紙芝居を実施するなど外部に発信することでモチベーションの底上げにつながった他、成績評価を数値化することでクラスごとの状況が可視化され、評価する際の参考となっている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
上野 昭子	新宿区戸塚地区民生委員・児童委員協議会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	地域関係者
檜戸 雅也	有限会社ナラト	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
児玉 恒士	フリーランス	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.tokyo-anime.jp/data/>

公表時期: 45107

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の理念でもある、“業界にとって信頼できる人材育成機関であること”を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	本校について、理念について
(2) 各学科等の教育	教育について(教育課程及び学科別公開情報)
(3) 教職員	教育について(教育課程及び学科別公開情報)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	教育について(教育活動)、進路について
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育について(教育活動)
(6) 学生の生活支援	進路について(キャリアサポート)
(7) 学生納付金・修学支援	入学について(納入金)
(8) 学校の財務	本校について(学校の財務)
(9) 学校評価	教育について(自己評価、学校関係者評価)
(10) 国際連携の状況	留学生の方はこちら
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.tokyo-anime.jp/data/>

公表時期: 2023/6/30

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			作画基礎・応用	アニメーションの作画行程『動画』について学ぶ。与えられた『原画』の中割りをし『動画』を描くことにより、アニメーションの基本的動きの表現を理解していく。	1～3年 通年	256	8			○	○			○	
2	○			背景美術	パースを理解し、遠近感のある背景を描けるようになる事を目標とします。また、専門画材の使用方もマスターしアナログ背景を完成させます。	1～3年 通年	256	8			○	○			○	
3	○			企画演出論	アニメーションのカメラワークを学習。その後15秒の絵コンテを作成し、選出。グループに別れ、1年終了時まで作品制作する。	1年 前期	64	2	○			○				○
4	○			デッサン	見た物の形を捉えて絵に描き出す力や物の質感を表現出来る様に鍛錬します。集中度を高めながら材質表現・形態への認識の幅を広げる。	1～3年 通年	448	14			○	○			○	
5	○			パースペクティブ	アニメの場面の中の近景や遠景が自然に見える描き方を練習します。	1年 前期	32	1			○	○				○
6	○			キャラクターデザイン	キャラクター制作の基本を身に付け、デジタルワークをプラスし、表現のクオリティアップを図る	1年 通年	96	3			○	○				○
7	○			デジタルワーク基礎	キャラクター制作の基本を身に付け、デジタルワークをプラスし、表現のクオリティアップを図る	1年 前期	32	1			○	○				○
8	○			アニメーション実習	アニメーターに必要な手描きの作画をする際の物の動き方や考え方などの基本を理解し習得する事。また、アニメーション彩色ソフト「RETAS STUDIO Paintman」の操作方法を理解する。	1年 通年	128	4			○	○				○
9	○			ショートアニメーション制作	前期より続いている15秒CM課題を完成させる。同時に2年次グループワーク用絵コンテを作る。	1年 後期	32	1			○	○				○
10	○			作品制作	各授業科目で遅れている課題の進行及び就職・デビュー指導	1～3年 通年	160	5	△		○	○			○	
11	○			3DCG	3Dソフトウェア「3dsMAX」を使って、3DCGの基礎を学び、CG制作の技法を習得する。	2年 通年	128	4			○	○				○
12	○			映像編集	アニメーション制作会社における「撮影」セクションへの理解を深め、映像制作のソフトウェアオペレーションの習得だけではなく、アニメーション映像を制作するうえで必要となる素材の作成方法を知る。	2年 通年	128	4			○	○			○	○
13	○			デジタル背景美術	パソコンソフトPhotoshopを使った背景画の描き方を学びます。	2年 前期	64	2			○	○				○
14	○			アニメーション制作	グループを作り、集団でのアニメーション作品制作を実習しながら、作画・仕上げ・撮影などあらゆる制作技術を体験し、アニメーション制作の流れを理解します。	2・3年 通年	192	6			○	○				○
15	○			アニメーターワーク	アニメーションの場面ごとに人物や背景がどう見えるのかを決める構図の取り方を理解します。原画マンとしての知識と理解を深めます。	2・3年 通年	192	6			○	○				○
16	○			モーションデザイン	静止画からアニメーション映像を作成することが出来る「Live2D Cubism」を習得する。	1・2年 通年	192	6	△		○	○				○
17	○			シナリオ	アニメシナリオ+企画書作りを学ぶ。	2年 前期	32	1			○	○				○
18	○			サウンド実習	DAWの概念を体系的に理解しアニメ制作に於けるサウンドの重要性、可能性、及び制作の在り方をマスターする	3年 通年	64	2			○	○				○
19	○			演出監督術	アニメーションも含めた映像全般の作成において知っておくべき基本的な演出技法を、参考映像と共に実際に絵コンテを描いて体験学習する。	3年 通年	128	4	○			○				○
20	○			卒業制作	アニメーション作品制作を実習しながら、作画・仕上げ・撮影などあらゆる制作技術を体験し、アニメーション制作の流れを理解します。	3年 後期	64	2			○	○				○
合計						20	科目	2688 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	各学科が定める所定の全授業科目を所定の年次にすべて合格することを	1	2
履修方法:	授業内で随時行う課題に対する技術評価・レポート・プレゼンテーション	1	16

- (留意事項)
- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
東京アニメーションカレッジ専門学校		昭和59年3月30日		田中道信		〒 161-0033 (住所) 東京都新宿区下落合1-1-8 (電話) 03-5332-3056				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人創都学園		昭和59年3月30日		鈴木雅文		〒 161-0033 (住所) 東京都新宿区下落合1-1-8 (電話) 03-5332-3056				
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化・教養専門課程		総合学科 (総合コミックコース)		平成20(2008)年度	-	令和 3(2021)年度			
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づきマンガ・アニメ・イラスト・声優に関し必要とされる技能を養成し、それらを総合的に理解しプロデュースする知識や技術を身につける。又は教育の向上を図ることを目的とする。									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	3年間かけより幅広い分野の専門性を学び、総合的な能力の向上を図っていく。担任制・固定教室制。									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			2,688 単位時間	32 単位時間	0 単位時間	2,656 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
					単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)					
90 人の内数	37 人		8 人		22 %					
就職等の状況	■卒業者数(C)		5		人					
	■就職希望者数(D)		2		人					
	■就職者数(E)		2		人					
	■地元就職者数(F)		0		人					
	■就職率(E/D)		100		%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		0		%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		40		%					
	■進学者数		0		人					
	■その他									
					(令和 4 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)					
		■主な就職先、業界等		(令和4年度卒業生) デザイン会社、ゲーム会社、アニメ制作会社、漫画出版関連など						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無					
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL					
当該学科のホームページURL	https://www.tokyo-anime.jp/subject/comic.html									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)									
	総授業時数					2,688 単位時間				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					128 単位時間					
うち企業等と連携した演習の授業時数					0 単位時間					
うち必修授業時数					2,688 単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					128 単位時間					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					0 単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					0 単位時間					
(B: 単位数による算定)										
総授業時数					単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					単位					
うち企業等と連携した演習の授業時数					単位					
うち必修授業時数					単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				6 人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				2 人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				1 人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人					
	計				9 人					
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					8 人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程(カリキュラム)編成において、イラスト業界の時代に即した人材育成の要望に応えられるよう、様々な出版社・編集プロダクション・ゲーム会社などにプロとして必要な技術技能などヒアリングしながら実践的な教育カリキュラムの開発や施設設備及び実践研修環境の充実等、教育課程の内容充実を図れるよう取り組んでいく。また、業界の方に学校を見学してもらい意見交換する機会を設けるなど積極的に業界の意見を取り入れていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、企業等の要請を教育課程へ反映し、実践的な職業教育実施のための委員会として組織する。その委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、その他会議等において内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年9月20日現在

名前	所属	任期	種別
南 雅彦	株式会社ボンズ代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
大平 幸輝	合同会社 アカランタン 社長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
香取 正樹	公益社団法人 日本漫画家協会 参与	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
志田 隆一郎	株式会社サイドランチ 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
百田 英生	一般社団法人 国際声優育成協会 理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
西名 武	株式会社HALF H・P STUDIO (ハーフエイチ・ピーススタジオ)取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
木村 崇信	有限会社F9 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
田中 道信	東京アニメーションカレッジ専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
伊藤 恒幸	東京アニメーションカレッジ専門学校 総合学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
稲見 千春	東京アニメーションカレッジ専門学校 アニメ学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
笠貫 正伸	東京アニメーションカレッジ専門学校 アニメーション担当	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
西澤 愛	東京アニメーションカレッジ専門学校 マンガ・イラスト学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
原崎 真由子	東京アニメーションカレッジ専門学校 声優学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
小野 はるか	東京アニメーションカレッジ専門学校 声優学科担当	令和5年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (11月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年11月14日 17:00～19:00

第2回 令和5年3月29日 17:00～19:00

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

業界のデジタル化に合わせた学校の対応について毎回委員から意見をいただいております。マンガ・イラスト系のコースは学生の教材としてPC購入必須としカリキュラム内容もデジタル化を少しずつ図っている。

アニメ作品だけでなく演劇など様々なジャンルの物を見せるべきとの委員の意見に基づき演劇や歌舞伎など様々な舞台鑑賞を実施し、クリエイティビティの向上につなげている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 イラスト業界の最前線の知識・技術・技能を実習に取り入れていく為、出版社・編集プロダクション・ゲーム会社など関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供していく。また、時代の流れに対応する為に静止画にこだわらず2Dキャラクターでの動画も視野に入れ様々な関連企業の意見を取り入れられるよう努力する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 企業との連携により、静止画キャラクターからアニメーション映像を作成することが出来るアプリケーション「Live2D Cubism」を修得し、イラスト作成を主体としている学生の作品表現幅を広げる。また、近年急速に普及している「ソーシャルアプリケーションゲーム」産業への就職も視野に入れた授業内容とします。
 課題として様々な動きのあるキャラクター作品を作成し、その完成度をもって課題評価を行う。
 評価に関しても合同会社アカランタンにおいて、どの程度実際の現場で通用するかの基準をもって評価している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
モーションデザイン	静止画キャラクターからアニメーション映像を作成することが出来るアプリケーション「Live2D Cubism」の修得	合同会社アカランタン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や各種表現活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、創都学園 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「アニメ人材パートナーズフォーラム 産学交流会」	連携企業等:	日本動画協会
期間:	令和4年7月22日(金)	対象:	教員2名
内容	学生向け講座動画のご案内や、コロナ禍における規制緩和による今後の動向、学校教育と就業を結ぶ実習等について		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「人権教育研修「発達障害に対する理解と援助」	連携企業等:	公益財団法人東京都私学財団
期間:	令和4年11月30日(水)	対象:	教員1名
内容	発達障害についての正しい知識、ADHD、ASDなどの発達障害の特徴と、それぞれに合わせた学校における具体的な配慮と支援のあり方について		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「アニメ人材パートナーズフォーラム 産学交流会」	連携企業等:	日本動画協会
期間:	令和5年複数回実施	対象:	教員2名
内容	学生向け講座動画・オンライン・対面の案内や、業界の動向、学校教育と就業を結ぶ実習等について		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	人権教育研修	連携企業等:	公益財団法人東京都私学財団
期間:	令和5年11月頃	対象:	教員1名
内容	毎年実施のメンタルヘルスケアなどに関する具体的な配慮と支援のあり方について		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校教育活動についてを説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために多角的にその運営が適正に行われているのかを審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

モチベーションの底上げや教員による評価の差をどのように均一化していくかなどの意見が出た。地域貢献も兼ねて小学生対象に紙芝居を実施するなど外部に発信することでモチベーションの底上げにつながった他、成績評価を数値化することでクラスごとの状況が可視化され、評価する際の参考となっている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
上野 昭子	新宿区戸塚地区民生委員・児童委員協議会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	地域関係者
檜戸 雅也	有限会社ナラト	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
児玉 恒士	フリーランス	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.tokyo-anime.jp/data/>

公表時期: 45107

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の理念でもある、“業界にとって信頼できる人材育成機関であること”を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	本校について、理念について
(2) 各学科等の教育	教育について(教育課程及び学科別公開情報)
(3) 教職員	教育について(教育課程及び学科別公開情報)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	教育について(教育活動)、進路について
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育について(教育活動)
(6) 学生の生活支援	進路について(キャリアサポート)
(7) 学生納付金・修学支援	入学について(納入金)
(8) 学校の財務	本校について(学校の財務)
(9) 学校評価	教育について(自己評価、学校関係者評価)
(10) 国際連携の状況	留学生の方はこちら
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.tokyo-anime.jp/data/>

公表時期: 2023/6/30

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			漫画制作実習	短編漫画の制作。	1年 通年	192	6			○	○			○	
2	○			コミック表現技法	漫画に描く際に使用される、ペンの使い方など基本のテクニックを学ぶ。	1・2年 通年	256	8			○	○				○
3	○			デッサン	見た物の形を捉えて絵に描き出す力や物の質感を表現出来る様に鍛錬します。集中度を深めながら材質表現・形態への認識の幅を広げる。	1～3年 通年	448	14			○	○	○			○
4	○			デザイン資料考証	漫画・イラストを描く際に使う資料のうち、時代劇・海外資料など「知識」が必要なものについて解説する。	1年 後期	32	1	○			○				○
5	○			キャラクターデザイン	キャラクターデザインのプロセス、作成スキルを身につける。	1年 通年	96	3			○	○				○
6	○			イラストテクニック	画材の基本的な使い方と、水彩・アクリルそれぞれの特性を生かした技法の修得。	1年 前期	64	2			○	○				○
7	○			デジタルワーク演習	キャラクターデザインのプロセス、作成スキルを身につける。	1年 前期	32	1		△	○	○				○
8	○			シナリオ	読み切りマンガのストーリー作りを学ぶ。	1年 前期	32	1			○	○				○
9	○			作品制作	各授業科目で遅れている課題の進行及び就職・デビュー指導	1～3年 通年	192	6	△		○	○			○	
10	○			漫画イラスト制作	16p以上の漫画を1本以上仕上げ上げる。イラストの場合はB4で8枚相当	2・3年 通年	288	9			○	○				○
11	○			カラー漫画	色々な画材と水彩紙などを使って、自分に合った表現方法を探す	2年 通年	64	2			○	○				○
12	○			総合制作	2年間で学んだことを集約した作品制作。	2年 通年	96	3			○	○				○
13	○			デザイン演習	アドビイラストレーターを使用した基本知識とデザイン演習	2年 通年	128	4	△		○	○				○
14	○			デジタルコミック	Clip Studio Paintを使用し、商業レベルの入稿原稿を作成できるようにする	2年 通年	128	4	△		○	○				○
15	○			卒業制作	卒業に向け、3年間で学んだことを集約した作品制作。	3年 通年	256	8			○	○				○
16	○			イラスト制作実習	画材の基本的な使い方と、水彩・アクリルそれぞれの特性を生かした技法の修得。イラストを描く際に必要な知識、約束事などの修得。	3年 通年	128	4			○	○				○
17	○			デジタルイラスト	実践に近い課題を重ねながら、ポートフォリオに入れる作品を増やして行く	3年 通年	128	4			○	○				○
18	○			モーションデザイン	静止画からアニメーション映像を作成することが出来る「Live2D Cubism」を習得する。	3年 通年	128	4	△		○	○				○
合計						18	科目	2688 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：各学科が定める所定の全授業科目を所定の年次にすべて合格することを	1学年の学期区分	2期
履修方法：授業内で随時行う課題に対する技術評価・レポート・プレゼンテーション	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
東京アニメーションカレッジ専門学校		昭和59年3月30日		田中道信		〒 161-0033 (住所) 東京都新宿区下落合1-1-8 (電話) 03-5332-3056				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人創都学園		昭和59年3月30日		鈴木雅文		〒 161-0033 (住所) 東京都新宿区下落合1-1-8 (電話) 03-5332-3056				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度				
文化・教養	文化・教養専門課程	総合学科 (総合声優コース)		平成20(2008)年度	-	令和 3(2021)年度				
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づきマンガ・アニメ・イラスト・声優に関し必要とされる技能を養成し、それらを総合的に理解しプロデュースする知識や技術を身につける。又は教育の向上を図ることを目的とする。									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	3年間かけより幅広い分野の専門性を学び、総合的な能力の向上を図っていく。担任制。									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			2,688 単位時間	192 単位時間	0 単位時間	2,496 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
					単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)						
90 人の内数	16 人	0 人		0 %						
就職等の状況	■卒業者数(C)		7		人					
	■就職希望者数(D)		5		人					
	■就職者数(E)		5		人					
	■地元就職者数(F)		0		人					
	■就職率(E/D)		100		%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		0		%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		71		%					
	■進学者数		2		人					
	■その他									
			(令和 4 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)							
		■主な就職先、業界等		(令和4年度卒業生) 声優プロダクション、一般職						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無					
	評価団体:	受審年月:			評価結果を掲載したホームページURL					
当該学科のホームページURL	https://www.tokyo-anime.jp/subject/voice.html									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)									
	総授業時数		2,688 単位時間							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		320 単位時間								
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間								
うち必修授業時数		2,688 単位時間								
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		320 単位時間								
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間								
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間								
		(B: 単位数による算定)								
総授業時数		単位								
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位								
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位								
うち必修授業時数		単位								
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位								
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位								
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位								
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		6 人							
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		2 人							
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人							
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		1 人							
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0 人							
	計		9 人							
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		8 人								

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程(カリキュラム)編成において、声優業界の方々にプロとして必要な技術技能などヒアリングしながら実践的な教育カリキュラムの開発や施設設備及び実践研修環境の充実等、教育課程の内容充実を図れるよう取り組んでいく。また、声優業界の方によるセミナーなど学内で開催し意見交換する機会を設けるなど積極的に業界の意見を取り入れていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、企業等の要請を教育課程へ反映し、実践的な職業教育実施のための委員会として組織する。その委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、その他会議等において内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年9月20日現在

名前	所属	任期	種別
南 雅彦	株式会社ボンズ代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
大平 幸輝	合同会社 アカランタン 社長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
香取 正樹	公益社団法人 日本漫画家協会 参与	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
志田 隆一郎	株式会社サイドランチ 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
百田 英生	一般社団法人 国際声優育成協会 理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
西名 武	株式会社HALF H・P STUDIO (ハーフエイチ・ピーススタジオ)取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
木村 崇信	有限会社F9 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
田中 道信	東京アニメーションカレッジ専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
伊藤 恒幸	東京アニメーションカレッジ専門学校 総合学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
稲見 千春	東京アニメーションカレッジ専門学校 アニメ学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
笠貫 正伸	東京アニメーションカレッジ専門学校 アニメーション担当	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
西澤 愛	東京アニメーションカレッジ専門学校 マンガ・イラスト学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
原崎 真由子	東京アニメーションカレッジ専門学校 声優学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
小野 はるか	東京アニメーションカレッジ専門学校 声優学科担当	令和5年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (11月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年11月14日 17:00～19:00

第2回 令和5年3月29日 17:00～19:00

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

校内オーディションの内容に対する議論で、朗読よりナレーションをやった方が良いという意見を踏まえ、内容を変更して実施。

オーディション対策として『ナレーション実習』にて対策を取り入れている。

ゲーム関連が増加しているとの話があり、アニメだけでなくゲームボイスにも対応できるよう取り組んでいる。

その他、細かな指摘をカリキュラムに少しずつ落とし込んでいっている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

声優に関する実践的な授業を行うため、声優のマネジメントを行っている企業から所属声優を講師として派遣してもらい、校内の実習施設・設備を活用した指導などの協力を得られる企業を選定している。また、校内の実習の実施にあたり、企業から課題を提示し、派遣された講師による年間を通じた指導を実施することで現場で通用する人材を育成していく。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業との連携により、現役の声優として人気アニメ『デジモンアドベンチャー』などに出演の講師を派遣してもらい、声優としての基礎を磨きながら、実際のボイスドラマ台本を使用して、現場に必要なマイクワークや作品への取り組み方を修得する。

実技の発表や収録した録音物など現場に即した成果物で評価を行っていく。

株式会社アクトゥリスにおいて新人レッスンをしている講師から現場対応の能力含め評価を行っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
声優実習	声優として必要となる、滑舌・発声・演技力・体づくりをベースに、様々な台本を元に声を使った表現を学ぶ。ボイスドラマの台本を使用し、作品作りやマイクワーク等も学ぶ。	株式会社アクトゥリス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や各種表現活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、創都学園 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「日本声優事業者協議会 第10回賛助会員セミナー」	連携企業等:	日本声優事業者協議会
期間:	令和4年11月16日(水)	対象:	教員2名
内容	『音声業界の今、これからの声優に求められること』をテーマに声優業界の現状の理解と役者のメンタルケアについて講演		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「人権教育研修「発達障害に対する理解と援助」	連携企業等:	公益財団法人東京都私学財団
期間:	令和4年11月30日(水)	対象:	教員1名
内容	発達障害についての正しい知識、ADHD、ASDなどの発達障害の特徴と、それぞれに合わせた学校における具体的な配慮と支援のあり方について		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「日本声優事業者協議会 第11回賛助会員セミナー」	連携企業等:	日本声優事業者協議会
期間:	令和5年11月頃実施予定	対象:	教員2名
内容	『音声業界の今、これからの声優に求められること』をテーマにその時代に即した内容にて実施		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	人権教育研修	連携企業等:	公益財団法人東京都私学財団
期間:	令和5年11月頃	対象:	教員1名
内容	毎年実施のメンタルヘルスケアなどに関する具体的な配慮と支援のあり方について		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校教育活動についてを説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために多角的にその運営が適正に行われているのかを審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

モチベーションの底上げや教員による評価の差をどのように均一化していくかなどの意見が出た。地域貢献も兼ねて小学生対象に紙芝居を実施するなど外部に発信することでモチベーションの底上げにつながった他、成績評価を数値化することでクラスごとの状況が可視化され、評価する際の参考となっている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
上野 昭子	新宿区戸塚地区民生委員・児童委員協議会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	地域関係者
檜戸 雅也	有限会社ナラト	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
児玉 恒士	フリーランス	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.tokyo-anime.jp/data/>

公表時期: 45107

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の理念でもある、“業界にとって信頼できる人材育成機関であること”を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	本校について、理念について
(2) 各学科等の教育	教育について(教育課程及び学科別公開情報)
(3) 教職員	教育について(教育課程及び学科別公開情報)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	教育について(教育活動)、進路について
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育について(教育活動)
(6) 学生の生活支援	進路について(キャリアサポート)
(7) 学生納付金・修学支援	入学について(納入金)
(8) 学校の財務	本校について(学校の財務)
(9) 学校評価	教育について(自己評価、学校関係者評価)
(10) 国際連携の状況	留学生の方はこちら
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.tokyo-anime.jp/data/>

公表時期: 2023/6/30

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			声優基礎	声優として必要になる、発声、滑舌、体づくり等、基礎の習得。	1年 通年	128	4			○	○			○	
2	○			声優実習	声優として必要となる、滑舌・発声・演技力・体づくりをベースに、様々な台本を元に声を使った表現を学ぶ。ボイスドラマの台本を使用し、作品作りやマイクワーク等も学ぶ。	1～3 年通 年	320	10			○	○			○	○
3	○			文章実習	声優として必要となる、基礎知識や国語力の習得。また、ボイスドラマ台本を通して読解力を養う。	1年 通年	64	2	○			○			○	
4	○			アナウンス実習	敬語や文法のほか国語ドリル等も実施。台本や原稿の文章を正しく読み、理解することを目指す。また、国語力、言語力、敬語力の指導も実施する。	1・3 年通 年	128	4	○			○			○	
5	○			放送実習1	実際の番組を想定し、パーソナリティとしてさまざまなタイプの番組進行を疑似体験した上、番組をゼロから作る作業にも挑戦する。	1・2 年通 年	256	8			○	○			○	
6	○			ダンス実習	自分に必要なエクササイズ・ストレッチを探す。さらに美しい姿勢でのウォーキングや腹式呼吸の徹底。	1・2 年通 年	128	4			○	○			○	
7	○			ボーカル実技	ボイストレーニング、リズムトレーニング等、歌う為のベーシックトレーニング、声優として必要になるボーカルレッスンを実施します。また、様々なジャンルの音楽に触れ実践を重ねる。	1・3 年通 年	128	4			○	○			○	
8	○			ボーカルユニット	ステージ作品を学生主体で創り上げることにより（台本、演出、音楽、振付、衣裳、音響、照明プランなど）総合的に舞台演技、ステージングを学ぶ。	1・2 年通 年	128	4			○	○			○	
9	○			ボーカルメソッド	歌唱に必要となってくる、基礎の楽典の理解。楽譜に慣れ親しみ、読譜や音符の理解に努める。	1・2 年通 年	128	4	△		○	○			○	
10	○			タレント実習	ストレッチ、筋トレ、リズムトレーニング、コンビネーション、柔軟、筋トレなどを通じて踊る為の基礎作りをする。	1・3 年通 年	128	4			○	○			○	
11	○			業界概論	声優業界に進むにあたって必要な業界知識などを学びつつ、オーディション対策も実施していく。	1～3 年通 年	192	6	△		○	○		○		
12	○			アニメーション制作	実際のアフレコ現場と同じ環境に身を置き、マイク前で演じる事に慣れる。役作り、Vチェック、録音に纏わる全ての流れを学びます。	2・3 年通 年	256	8			○	○			○	
13	○			舞台制作	集大成として、外部上演する卒業公演の為の指導を行う。舞台演劇の為のワークショップ、エチュード等も行い、声優として必要になる舞台俳優としてのスキルを磨く。	2・3 年通 年	256	8			○	○			○	
14	○			演技実習	意識を相手役に向ける感覚を鍛え、個人プレイではなくチームプレイの演技を学ぶ。	2・3 年通 年	256	8			○	○			○	
15	○			ヴォイスコントロール	演技するとはどういうことか？自分自身の声や身体の魅力を見つけ出し、それを利用して、表現する楽しさを学ぶ。	2・3 年通 年	128	4			○	○			○	
16	○			ナレーション実習	様々なスタイルのナレーションに対応するチカラを付ける。また、オーディション対策も兼ねて実施する。	3年 通年	64	2			○	○			○	
合計						16	科目	2688 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：各学科が定める所定の全授業科目を所定の年次にすべて合格することを	1学年の学期区分	2期
履修方法：授業内で随時行う課題に対する技術評価・レポート・プレゼンテーショ	1学期の授業期間	16週

- (留意事項)
- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
東京アニメーションカレッジ専門学校		昭和59年3月30日		田中道信		〒 161-0033 (住所) 東京都新宿区下落合1-1-8 (電話) 03-5332-3056				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人創都学園		昭和59年3月30日		鈴木雅文		〒 161-0033 (住所) 東京都新宿区下落合1-1-8 (電話) 03-5332-3056				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度				
文化・教養	文化・教養専門課程	総合学科 (総合キャリアデザインコース)		平成20(2008)年度	-	令和 3(2021)年度				
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づきマンガ・アニメ・イラスト・声優に関し必要とされる技能を養成し、それらを総合的に理解しプロデュースする知識や技術を身につける。又は教育の向上を図ることを目的とする。									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	3年間かけより幅広い分野の専門性を学び、総合的な能力の向上を図っていく。担任制。									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,688 単位時間	256 単位時間	0 単位時間	2,432 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	
			単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)						
90 人の内数	7 人	0 人		0 %						
就職等の状況	■卒業者数(C)		0 人							
	■就職希望者数(D)		0 人							
	■就職者数(E)		0 人							
	■地元就職者数(F)		0 人							
	■就職率(E/D)		0 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		0 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		0 %							
	■進学者数		0 人							
	■その他									
					(令和 4 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)					
		■主な就職先、業界等		(令和4年度卒業生) 卒業生なし						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無							
		※有の場合、例えば以下について任意記載								
		評価団体:	受審年月:	評価結果を掲載したホームページURL						
当該学科のホームページURL	https://www.tokyo-anime.jp/subject/voice.html									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)									
	総授業時数		2,688 単位時間							
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		192 単位時間						
		うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間						
		うち必修授業時数		2,688 単位時間						
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		192 単位時間						
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間						
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間						
		(B: 単位数による算定)								
		総授業時数		単位						
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位						
		うち企業等と連携した演習の授業時数		単位						
		うち必修授業時数		単位						
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位						
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位						
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		6 人					
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		2 人					
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人					
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		1 人					
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0 人					
	計				9 人					
		上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		8 人						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程(カリキュラム)編成において、声優業界の方々にプロとして必要な技術技能などヒアリングしながら実践的な教育カリキュラムの開発や施設設備及び実践研修環境の充実等、教育課程の内容充実を図れるよう取り組んでいく。また、声優業界の方によるセミナーなど学内で開催し意見交換する機会を設けるなど積極的に業界の意見を取り入れていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、企業等の要請を教育課程へ反映し、実践的な職業教育実施のための委員会として組織する。その委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、その他会議等において内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年9月20日現在

名前	所属	任期	種別
南 雅彦	株式会社ボンズ代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
大平 幸輝	合同会社 アカランタン 社長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
香取 正樹	公益社団法人 日本漫画家協会 参与	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
志田 隆一郎	株式会社サイドランチ 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
百田 英生	一般社団法人 国際声優育成協会 理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
西名 武	株式会社HALF H・P STUDIO (ハーフエイチ・ピーススタジオ)取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
木村 崇信	有限会社F9 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
田中 道信	東京アニメーションカレッジ専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
伊藤 恒幸	東京アニメーションカレッジ専門学校 総合学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
稲見 千春	東京アニメーションカレッジ専門学校 アニメ学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
笠貫 正伸	東京アニメーションカレッジ専門学校 アニメーション担当	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
西澤 愛	東京アニメーションカレッジ専門学校 マンガ・イラスト学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
原崎 真由子	東京アニメーションカレッジ専門学校 声優学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
小野 はるか	東京アニメーションカレッジ専門学校 声優学科担当	令和5年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (11月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年11月14日 17:00～19:00

第2回 令和5年3月29日 17:00～19:00

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

校内オーディションの内容に対する議論で、朗読よりナレーションをやった方が良いという意見を踏まえ、内容を変更して実施。

オーディション対策として『ナレーション実習』にて対策を取り入れている。

ゲーム関連が増加しているとの話があり、アニメだけでなくゲームボイスにも対応できるよう取り組んでいる。

その他、細かな指摘をカリキュラムに少しずつ落とし込んでいっている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

声優に関する実践的な授業を行うため、声優のマネジメントを行っている企業から所属声優を講師として派遣してもらい、校内の実習施設・設備を活用した指導などの協力を得られる企業を選定している。また、校内の実習の実施にあたり、企業から課題を提示し、派遣された講師による年間を通じた指導を実施することで現場で通用する人材を育成していく。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業との連携により、現役の声優として人気アニメ『デジモンアドベンチャー』などに出演の講師を派遣してもらい、声優としての基礎を磨きながら、実際のボイスドラマ台本を使用して、現場に必要なマイクワークや作品への取り組み方を修得する。

実技の発表や収録した録音物など現場に即した成果物で評価を行っていく。

株式会社アクトゥリスにおいて新人レッスンをしている講師から現場対応の能力含め評価を行っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
声優実習	声優として必要となる、滑舌・発声・演技力・体づくりをベースに、様々な台本を元に声を使った表現を学ぶ。ボイスドラマの台本を使用し、作品作りやマイクワーク等も学ぶ。	株式会社アクトゥリス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や各種表現活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、創都学園 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「日本声優事業者協議会 第10回賛助会員セミナー」	連携企業等:	日本声優事業者協議会
期間:	令和4年11月16日(水)	対象:	教員2名
内容	『音声業界の今、これからの声優に求められること』をテーマに声優業界の現状の理解と役者のメンタルケアについて講演		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「人権教育研修「発達障害に対する理解と援助」	連携企業等:	公益財団法人東京都私学財団
期間:	令和4年11月30日(水)	対象:	教員1名
内容	発達障害についての正しい知識、ADHD、ASDなどの発達障害の特徴と、それぞれに合わせた学校における具体的な配慮と支援のあり方について		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「日本声優事業者協議会 第11回賛助会員セミナー」	連携企業等:	日本声優事業者協議会
期間:	令和5年11月頃実施予定	対象:	教員2名
内容	『音声業界の今、これからの声優に求められること』をテーマにその時代に即した内容にて実施		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	人権教育研修	連携企業等:	公益財団法人東京都私学財団
期間:	令和5年11月頃	対象:	教員1名
内容	毎年実施のメンタルヘルスケアなどに関する具体的な配慮と支援のあり方について		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校教育活動についてを説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために多角的にその運営が適正に行われているのかを審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

モチベーションの底上げや教員による評価の差をどのように均一化していくかなどの意見が出た。地域貢献も兼ねて小学生対象に紙芝居を実施するなど外部に発信することでモチベーションの底上げにつながった他、成績評価を数値化することでクラスごとの状況が可視化され、評価する際の参考となっている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
上野 昭子	新宿区戸塚地区民生委員・児童委員協議会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	地域関係者
檜戸 雅也	有限会社ナラト	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
児玉 恒士	フリーランス	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.tokyo-anime.jp/data/>

公表時期: 45107

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の理念でもある、“業界にとって信頼できる人材育成機関であること”を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	本校について、理念について
(2) 各学科等の教育	教育について(教育課程及び学科別公開情報)
(3) 教職員	教育について(教育課程及び学科別公開情報)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	教育について(教育活動)、進路について
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育について(教育活動)
(6) 学生の生活支援	進路について(キャリアサポート)
(7) 学生納付金・修学支援	入学について(納入金)
(8) 学校の財務	本校について(学校の財務)
(9) 学校評価	教育について(自己評価、学校関係者評価)
(10) 国際連携の状況	留学生の方はこちら
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.tokyo-anime.jp/data/>

公表時期: 2023/6/30

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	単位数	授業方法			場所			教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任			
																△		○
1	○			声優基礎	声優として必要になる、発声、滑舌、体づくり等、基礎の習得。	1年 通年	128	4			○	○				○		
2	○			声優実習	声優として必要となる、滑舌・発声・演技力・体づくりをベースに、様々な台本を元に声を使った表現を学ぶ。ボイスドラマの台本を使用し、作品作りやマイクワーク等も学ぶ。	1～3年 通年	192	6			○	○					○	○
3	○			文章実習	声優として必要となる、基礎知識や国語力の習得。また、ボイスドラマ台本を通して読解力を養う。	1年 通年	64	2	○			○						○
4	○			アナウンス実習	敬語や文法のほか国語ドリル等も実施。台本や原稿の文章を正しく読み、理解することを目指す。また、国語力、言語力、敬語力の指導も実施する。	1～3年 通年	192	6	○			○						○
5	○			放送実習I	実際の番組を想定し、パーソナリティとしてさまざまなタイプの番組進行を疑似体験した上、番組をゼロから作る作業にも挑戦する。	1年 通年	64	2			○	○						○
6	○			ダンス実習	自分に必要なエクササイズ・ストレッチを探す。さらに美しい姿勢でのウォーキングや腹式呼吸の徹底。	1・2年 通年	128	4			○	○						○
7	○			ボーカル実技	ボイストレーニング、リズムトレーニング等、歌うためのベーシックトレーニング、声優として必要になるボーカルレッスンを実施します。また、様々なジャンルの音楽に触れ実践を重ねる。	1年 通年	64	2			○	○						○
8	○			エンタテインメントビジネス	声優、舞台、歌、ダンス等、芸能としてエンタテインメント業界のしくみを知り、企画制作できるノウハウを学ぶ。	2年 通年	32	1			○	○						○
9	○			ステージ音響・照明	イベント企画に必要な音響機材、照明機材に対する知識を身に付け、基礎的なセッティングやオペレーションを学ぶ。	2年 通年	64	2	△		○	○						○
10	○			タレント実習	ストレッチ、筋トレ、リズムトレーニング、コンビネーション、柔軟、筋トレなどを通じて踊るための基礎作りをする。	1年 通年	64	2			○	○						○
11	○			業界概論	声優業界に進むにあたって必要な業界知識などを学びつつ、オーディション対策も実施していく。	1～3年 通年	192	6	△		○	○						○
12	○			アフレコ実習 アニメ・映画	実際のアフレコ現場と同じ環境に身を置き、マイク前で演じる事に慣れる。役作り、Vチェック、録音に纏わる全ての流れを学びます。	2・3年 通年	256	8			○	○						○
13	○			舞台制作	集大成として、外部上演する卒業公演のための指導を行う。舞台演劇のためのワークショップ、エチュード等も行い、声優として必要になる舞台俳優としてのスキルを磨く。	2年 通年	32	1			○	○						○
14	○			演技実習	意識を相手役に向ける感覚を鍛え、個人プレイではなくチームプレイの演技を学ぶ。	1・2年 通年	256	8			○	○						○
15	○			アクトテクニック	演技するとはどういうことか？自分自身の声や身体の魅力を見つけ出し、それを利用して、表現する楽しさを学ぶ。	3年 通年	64	2			○	○						○
16	○			ナレーション実習	様々なスタイルのナレーションに対応するチカラを付ける。また、オーディション対策も兼ねて実施する。	1・2年 通年	128	4			○	○						○
17	○			DTP PCワーク	イラストレーター、Photoshop等のDTPソフトを使用し、フライヤーやグッズなどPCでのデザインについて学ぶ。	2・3年 通年	192	6			○	○						○
18	○			ビジネスマナー	ビジネスシーンで必要になる、電話のかけ方やメールの送り方、名刺交換の仕方なども含め、ビジネスマナーの基本を学び、ビジネス検定取得を目指す。	2・3年 通年	128	4			○	○						○
19	○			番組制作	演者の魅力を引き出すような番組の構成、トークの寸法、適切な内容量、音楽とのバランス、聞き手への配慮への技量を学ぶ。また、毎月1本、オリジナルの番組を制作し配信。ニコ生放送も実施する。	2・3年 通年	128	4			○	○						○
20	○			アニメ制作進行管理	アニメーション制作の流れを理解し、どのようにスケジュールや制作が管理されながら進行するのかを学ぶ。	3年 通年	64	2			○	○						○
21	○			アフレコ音響	ボイスサンプルの収録や、アフレコ収録の機材セッティングから実際の録音方法までを学ぶ。	3年 通年	64	2			○	○						○
22	○			イベント舞台企画制作	各種イベントやライブなどステージイベントの企画制作について学ぶ。	3年 通年	128	4			○	○						○
23	○			コンテンツ制作	イベント舞台企画制作と連動しながら、SNSを使った動画制作・コンテンツ制作への展開について学ぶ。	3年 通年	64	2			○	○						○
合計						23	科目	2688 単位 (単位時間)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等
卒業要件：各学科が定める所定の全授業科目を所定の年次にすべて合格することを	1学年の学期区分 2期
履修方法：授業内で随時行う課題に対する技術評価・レポート・プレゼンテーション	1学期の授業期間 16週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。